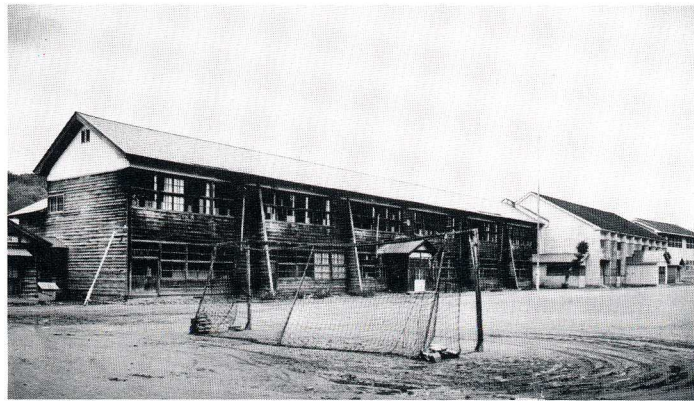


ました。

昭和22年(1947年)、国の教育のしくみ(六三制)が改められ、中学校をどの市町村にもつくらなければならないようになりました。苦しい財源不足の中で、どこでも大変な問題となりました。昭和村では、村民の理解と努力で、昭和24年(1949年)に、昭和村立昭和中学校を下中津川に新築落成させました。

昭和村の場合は、はじめから統合中学校ともいえる形でつくられたのです。



▲当時の中学校校舎

のりあい かいつう 乗合バスが開通

昭和26年(1951年)6月30日、宮下・小中津川間に乗合バスが運行されるようになりました。それまで昭和村から他町村へ行く時には、すべて歩きに頼っていました。田島へは舟ヶ鼻峠、高田へは博士峠、そして、宮下まで(ここまでは、昭和16年に鉄道が開通していた)は美女峠と、すべて険しい峠を越さなければならず、しかも、冬は積雪で通行できなくなってしまう。ただ一つ、平坦部(平らなところ)を通る川口への道が、大切な生活道路となっていたのです。

その川口を経由したバス路線の開通は、村民にとって長い間の願いがかなえられ、大きな喜びでした。そうして、駅のある宮下までのバスが運行されることにより、会津若松市まで日帰りできるほど便利になりました。

一方、昭和27年には田島町まで、7月の「祇園祭」のときだけバス